

令和元年度 公立瀬戸旭看護専門学校 自己点検・自己評価結果

平成30年度より、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に点検項目を決め、自己点検・自己評価委員会を開催し、全教員による評価点数の平均値により自己点検・自己評価を実施しています。令和元年度は、自己点検・自己評価の客観性と透明性を高めて学校運営の改善を図るために、「学校関係者評価委員」の方々に内容の評価をしていただきましたので、結果を公表します。

1. 実施時期 令和2年 6月

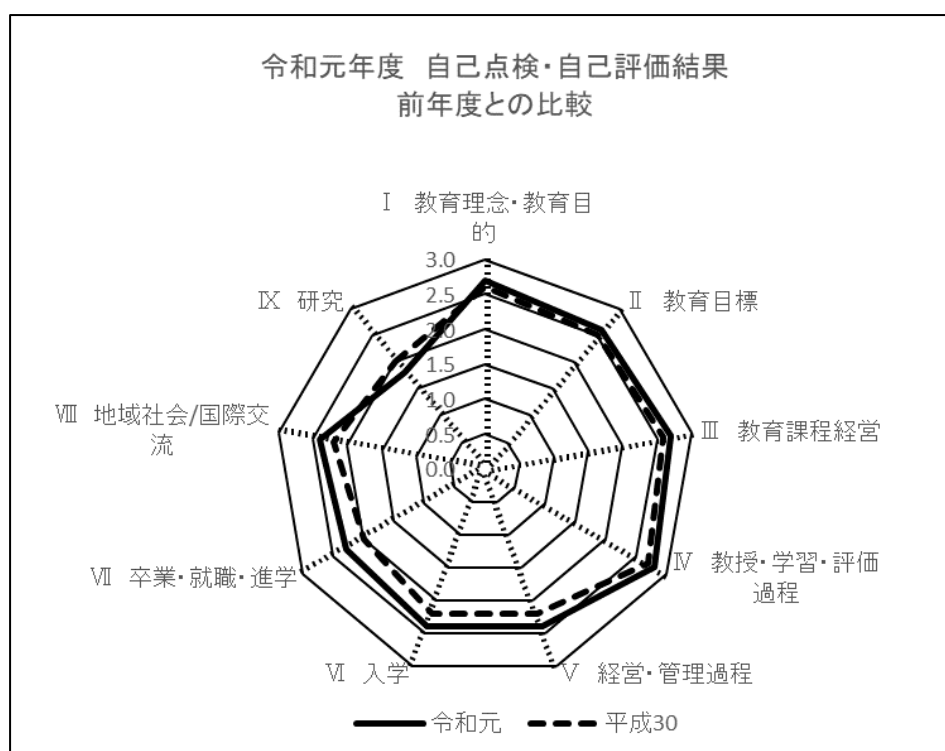
2. 評価結果

点検項目の評価は、「3：当てはまる」「2：やや当てはまる」「1：当てはまらない」の3段階とし、カテゴリー毎に平均点を求めた。

表1 自己点検・自己評価項目と評価点

カテゴリー	項目数	令和元年度評価点
I 教育理念・教育目的	11	2.7
II 教育目標	7	2.6
III 教育課程経営	31	2.7
IV 教授・学習・評価過程	17	2.8
V 経営・管理過程	30	2.4
VI 入学	2	2.4
VII 卒業・就職・進学	8	2.3
VIII 地域社会/国際交流	10	2.4
IX 研究	3	1.8

図1 令和元年度自己点検・自己評価結果 前年度との比較



3. 自己評価及び学校関係者評価結果

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
一 教育理念・教育目的	教育理念として、設置主体である瀬戸市・尾張旭市の地域住民の健康と福祉の向上に寄与することができる、人間尊重の精神を持つ感性豊かな看護師を育成することを掲げ、教育目標とともに学生便覧、授業概要、ホームページ、学校案内パンフレット等に掲載している。 学生に対しては、教育理念を具現化し、目指す看護師像に到達するための学習の指針となるよう学年毎の獲得目標を提示し、1年間の学習内容に対応した学習目標も合わせて提示して年度始めに学生毎にガイダンスを実施しており、これらを学生に浸透させるためには、今後も学生が常に意識できるように授業や実習など様々な教育活動において意図的な働きかけを継続して行うことが肝要である。 今後、地域のニーズやその変化に対応しているかという視点で見直すとともに、本校の特徴を盛り込み独自性を出していく必要がある。	2.7	3.0	内部評価の通り。
二 教育目標	教育理念・教育目的を基に教育目標を6項目あげ、その目標毎に内容を具体的に明文化している。 教育理念に対して教育目的・教育目標は対応しており、一貫性がある。また、教育目標については、社会ニーズに応える内容となっており、教育目標毎に設定意図が明文化されているので学生には理解しやすいものとなっているが、教育内容のみで卒業時の到達やゴールを具体的に示す形にはなっていない。 今後は、ディプロマポリシーとして明文化するよう検討していく。	2.6	2.7	・教育目標から教育活動のゴールまで読み取れない。 ・卒業後の継続教育の考え方までは示されていない。
三 教育課程経営	教育課程は、教育理念・教育目的に沿って学習目標や内容を考慮し、序列化して構築している。 各授業は、計画に基づき行われ、学生が理解しやすいよう工夫し授業評価を得ながら改善を図っており、科目配列に関しては学生の効果的な学びに繋がるように実施している。 今後は、講義終了時の学生による授業評価や卒業時のカリキュラム評価、講師等の意見をもとにより良いカリキュラムとなるよう取り組んでいく。	2.7	3.0	内部評価の通り。

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
ㇿ 授業・学習・評価課程	各分野の講義設定の考え方は、「授業概要」に明文化されており、各授業を分野ごとのまとまりとして捉え、構成している。 各授業は、教員が協同学習やTBL、小テストの実施など能動的学習を目指した取り組みを実施している。また、専門科目の校内実習では、個々の学生に対して綿密に指導するために複数の教員による指導体制をとり、学生が看護技術を習得できるよう努めている。 科目毎の評価は、科目講義内容や試験方法などを専任教員全体で検討した上で、他の関連教科との整合性を保ち、かつ科目の評価も偏らずに行っている。 シラバスは、「授業概要」に全科目を掲載しており、学年進級時に変更があれば修正版をその都度配布し、さらに必要であれば詳細な講義計画を初講時に配布している。 各科目の内容は明確にしてあるが、他の科目との関連や重複などについては十分な検証ができていないため、今後検討していく。	2.8	3.0	内部評価の通り。
ㇾ 経営・管理課程	組織体制は、学則・校務分掌要綱において規定している。また、教育活動に関する意思決定については、運営委員会や各種委員会等において審議のうえ校長が決定する体制としており、その決定事項を教職員に周知している。 予算については、所定の予算要求手続きを経て決定されるが、設置自治体の財政状況が厳しいことから、要求内容とおりに手当てされることは稀である。このため、要求にあたっては事業の優先順位やもたらす効果などについて十分な検討を行っている。 また、予算の執行についても財務規定に則り適正な執行に努めており、毎月、定期監査を実施している。 今後は、施設整備や教材備品等の購入を計画的に行い、充実した教育環境を整えるよう取り組んでいく。	2.4	2.7	・看護大学が増え、専門学校に対する需要が縮小している中で、特徴を打ち出した広報活動につながっていない。 ・老朽化した施設の設備投資の準備に至っていない。 ・長期的な将来構想が見えない。
ㇽ 入学	入学者の選抜については、受験倍率・受験者数の推移を考慮して入学試験（一般・推薦・社会人）を実施しており、入試委員会の審議を経て入学者を決定している。指定校推薦枠の拡大や積極的な学校訪問、様々なPRなどにより、一定の受験者数を確保している。 今後も質の高い入学者を獲得するため、広報活動の充実を図ると同時に、社会情勢を踏まえた入学者の選抜方法を検討していく。	2.4	2.7	・ほぼ内部評価の通りではあるが、質の高い入学者が獲得できているかの基準がみえない。

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
≡ 卒業・就職・進学	国家試験の合格者割合は、近年 96～100%を維持し全国平均を上回っており、その維持・向上に向けて定期的に国家試験対策会議を開催して計画的な 3 年間の学習計画を策定している。さらに 3 年次には、成績不振な学生に対して手厚い個別指導を行っており、今後も引き続き国家試験対策を強化し、合格率 100%を目指していく。 卒業生の多くは毎年、瀬戸旭地域の医療機関に就職して活躍しており、各医療機関の実習指導者となり、あるいは非常勤講師として後輩の育成に尽力されている。	2.3	2.3	・国試の対策や手厚い個別指導は十分実施できている。（合格率も高い） ・卒業時の到達状況の分析は学校運営会議で議題にならないので把握できない。 ・卒業生の就職先は示されているが、卒業後の活動状況が示されていない。
≡ 地域社会・国際交流	学生は、環境ボランティアとして清掃活動を全学年で行っており、地域におけるボランティア活動として、実習病院でのまつりや各種イベントへも積極的に参加・協力している。また、教員による専門分野を活かした社会貢献として、外部機関からの要請に応え講師として派遣などに努めており、臨地実習指導者講習会の講師や教育実習などにも積極的に対応している。 国際的視野を広げるため、国際看護の基本理念の理解やその方法を考える授業を取り入れ、図書室に関連の文献やDVDを所蔵して学生に国際交流への関心や意識を高めるよう努めている。今年度卒業講演として、自衛隊航空機動衛生隊長を招き、災害対応、国際協力・救助活動の実践についての講義を実施した。	2.4	2.0	・社会との連携に向けたニーズの把握は不足している。ボランティア活動を通して地域社会に貢献しているが、地域交流や社会を知る活動には熟成していない。 ・国際的な視野については不明で、評価が難しい。
☒ 研究	毎年、全ての教員がいずれかの研修会や学会等に参加し、教員個々の資質の向上が図られており、日々の教育活動に活かされているが、組織的・計画的な研究活動の実施体制は十分とは言えない現状である。 授業研究に繋がるような学校内での積極的な授業参加・交流を励行した結果、徐々に根付いてきたため、今後は教員の研究活動が組織的に行える体制づくりを検討していく。	1.8	1.7	・提示された資料からは、評価しきれないところがある。

【学校関係者評価を終えて】

「令和元年度公立瀬戸旭看護専門学校自己点検・自己評価」の結果を基に、学校関係者評価を実施いたしました。本校の学校運営について、概ね各評価項目とも大きな教育的課題のご指摘はございませんでしたが学校としての長期的な展望、卒業後の状況・継続教育の把握等についてご意見をいただきましたので、検討して参ります。

また、開校して 28 年目を迎え、施設の老朽化も進んでおり今後の重要な課題となりますが、教育活動に支障を来さぬ様、計画的に施設設備の管理・修繕や、教材備品の購入を進めて参ります。

今回学校関係者の方々から頂きましたご意見を真摯に受け止め、今後のより良い学校運営に活かしていくとともに、本校の教育理念に沿った質の高い卒業生を輩出し、地域に貢献していけるよう努力していく所存です。